



うすい ゆきこ
臼井 由紀子
(富岳会)

新稲子川温泉ユー・トリオについて

問 現在、空前のキャンプブームであり、キャンプや温泉早朝割引制度の導入の提案など、運営を改善していくために条例改正が必要と考えるがいかがか。

部長 キャンプや早朝割引制度の導入については条例改正が必要と考える。ユー・トリオの利用者が増加することは市全域への活性化につながるので引き続き、地域・指定管理者・市が一体となり、自然環境や温泉を生かした施策を展開していきたい。

市長 市としては建物に数億円かけた。レジオネラ属菌、新型コロナウイルスを乗り越えながら地域の人たちと親しみのある温泉にしようとして一生懸命努力している最中。もっと活性化するために努力をしていきたい。

富士宮市の表彰規定について

問 表彰審査委員会は、いつ誰が設け、表彰者を決定するのか伺う。

部長 市表彰条例に基づき毎年4月に設定する市長の附属機関であり、副市長、企画部長、市職員及び学識経験者により構成。

副市長 表彰者は、基準に基づいて決定し、それを市長へ答申し、市長が最終的に決裁をする。

生活支援体制整備事業について

問 協議体全体の進捗状況について伺う。

部長 全体として今年度は計画に基づき着実に事業進捗が図られているものと認識しているが今後、地域の状況を適切に把握しつつ事業全体が効果的に前進していくよう柔軟な姿勢で臨みたい。昨年11月議会での質問についてはメンバーの選出方法、ネーミング、エリアなどの第2層協議体の在り方について年度内に議論を行い、方向性を検討する計画を立てている。



こまつ かいぞう
小松 快造
(富岳会)

日本の農業が抱える問題点について

問 富士宮市内においても有機農法にて生産している農家が多くなっているが、現在の有機農法農家の採算性はいかがか。

部長 近年、農薬を使用していない野菜を対象とした農産物直売所やスーパーマーケットの一角においても、有機農産物を取り扱うコーナーが設置されるなど、そのニーズは拡大している。病害虫対策をする中での収穫量の安定、労力確保には厳しい状況。市は、環境保全型農業直接交付金を周知し有機農業の支援を行う。

一人一人が取り組む環境問題

問 食品ロスを減らす手立ては何かあるのか。

部長 市では現在、ごみダイエツプロジェクトの中で、2つの取組を推進している。1つ目は、家庭においては食べ切れる分だけ調理し、残っ

た場合はリメイクするなど工夫して食べること。2つ目は、買い物に行く前に冷蔵庫の中身の確認後買い物に行く。この2つの取組を、市民や事業者の皆様に実践していただく。なお、令和4年度は、新たな食品ロス削減推進計画を策定し、更なる周知・啓発に努めることを計画している。

問 学校給食の食品ロス率はどのくらいか。また対策はあるか。

部長 令和4年度9月までの残食率(食品ロス率)は12.23%となっている。残食を減らす対策としては、安全でおいしい給食を提供できるよう、各学校と毎日情報交換しメニューや調理法などの工夫・研究を続けている。給食は、食育の観点からも、子どもたちが好きなものばかりでなく、食わず嫌いや好き嫌いをなくす役割を持っている。少しでも残食が出ないように様々な工夫をしていく。